

厚生労働大臣
加藤 勝信 様
一億総活躍担当大臣
松山 政司 様

2018年3月28日
新日本婦人の会
会長 笠井貴美代

国の責任で認可保育所を大幅に増やし、
保育士の配置基準の引き下げ推奨の中止と基準改善による増員、
保育士処遇の抜本的改善をつよく求めます

新日本婦人の会は創立以来55年間、暮らしと平和、子どものしあわせ、女性の地位向上をめざして、草の根から運動を広げるとともに、国連NGOの女性団体として世界の女性との交流・連帯をすすめています。また、創立時から「ポストの声ほど保育所を」と求めて運動しています。

当会では、昨年末から今年2月末にかけ、「保育園!!! あなたの声を聞かせてください緊急アンケート」にとりくみ、各地から待機児童、育休退園、保育の質、保育料、保育士の処遇について世代を超えて切実な声が寄せられました。

アンケートの結果から、依然としてわが子を安心して預けられる保育園は圧倒的に足りていないこと、現場の保育士は劣悪な労働条件のなか、懸命に保育をおこなっていることが明らかになりました。

一方、現在国会で審議されている「子ども・子育て支援法改正案」に盛り込まれた待機児童対策は、自治体が独自に上乘せしている保育士の配置基準、面積基準を国基準へと切り下げることが推奨し、詰め込み保育で解消させるものです。待機児童の増加は、政府がこれまで保育に十分な予算を付けずにきた結果です。そのことを棚上げにして、自治体や子どもたちに負担を強いるのはやめてください。

規制緩和ではなく、ふさわしい予算を組んで、安心して子どもを預けられる認可保育所をたくさんつくり、未来を創っていく子どもたちのすこやかな育ちを最優先に考えた政策を求めます。

記

- 1、国と自治体が深刻な事態に向き合い、責任を持つ安心安全な認可保育所を解決にふさわしい規模で大幅に増やしてください。
- 1、自治体に対して、保育士配置基準、面積基準の国基準への引き下げによる詰め込み保育で待機児童解消を求めるようなことはやめてください。
- 1、保育士不足のため入所受け入れができない保育所が相次いでおり、保育士処遇の抜本的な改善と保育士配置基準の底上げで保育士不足を解消させてください。
- 1、上の子どもの保育を受ける権利を奪うとともに、待機児童問題の根本的な解決にはならない育休退園の制度はすぐにやめさせてください。

以上